

勝負にこだわり歩む柔ら道

ROAD 輝く人たち No.29



身 長144センチ、体重44キロと小柄な容姿からは想像もできない、鋭い眼光にパワーとスピードで並み居る強豪に立ち向かうのは、沖縄尚学高等学校3年宮城杏優菜さん(17)。宮城さんは今年5月、女子柔道のポーランドカデ国際大会(15歳以上、17歳以下)で初戦から全試合一本勝ちし、得意の背負い投げで優勝を決め初の世界の頂点に上り詰めます。そんな宮城さんが柔道を始めたのは幼稚園のとき。きっかけは格闘技好きの父親の影響でした。

幼い頃父親によくボクシングを見せてもらっていたと言う宮城さんは、「ボクシングをやりたい」と思うようになり、そのことを父親に言いますが、「女の子だからボクシングはダメ。柔道ならいいよ」と、柔道の道へと導かれます。「始めた当初はイヤイヤながら柔道をしていたのを覚えています。泣きながら続けていました。小学生の頃にはレスリングやハンドボールを掛け持ちし、レスリングに至っては全国3位になったこともあり、柔道よりも結果を残していると思います」と語る宮城さん。柔道一筋というわけではなかった宮城さんは、中学への進学を控え、「柔道かレスリングか二者択一で進むべき道に真剣に迷いますが、葛藤の末「柔道で金メダルを取りたい」という思いが勝り、柔道強豪校の沖縄尚学中学校に進学をします。

希望を胸に道場の門を叩いた宮城さんでしたが、ハードな練習に音を上げそうになります。「初めは練習のきつさから毎日筋肉痛で体も疲れ、勉強についていくのもやっと。心の中では常にやめたい」と思っていましたと明かします。しかし、監督の厳しさや怖さから「やめる」という言葉さえ出てこず、モヤモヤとした思いを晴らすかのように柔道に取り組みました。そうしているうちに宮城さんに転機が訪れま

す。中学2年のときに出場した九州大会で初優勝を果すのでした。「この優勝がきっかけで心から柔道が楽しいと思えるようになってきました。監督の教えは的確で練習はきつけれどやったらやった分だけ結果が付いてくる。今ではきつい練習でさえ楽しいです」と、宮城さんは笑顔を見せます。

技に磨きをかけ、自分よりも大きな相手に負けないような体を鍛え、心が伴った宮城さんですが、まだまだ課題があると言います。「私の得意技は背負い投げ。膝をつくのが私のスタイル。技が決まれば自分より大きな相手でも投げることができ一本取れます。しかし、担ぎ技にこだわり過ぎるところは自分の弱点。内股などいろいろな技がかけられるよう日々練習に取り組み、瞬間を見極め最適な技が繰り出せるようにしたい」と宮城さんは言葉に力を込めます。

宮城さんの今の目標は今月開催される全国高校総体で優勝すること。同じグループには6月の全九州高等学校柔道競技会で負けを喫したライバルの一人、中馬梨歩(鹿児島・国分中央高校)さんも顔を揃えます。「勝ちにこだわり一つ一つ気を抜かず戦い、雪辱を果たし優勝したい」。

宮城さんは最後にこう言います。「私にとって柔道はすべて。父の熱心さがあったから柔道が続けることができた。柔道があるから今の私があるんです」と。その言葉からは支えてくれる家族やまわりのすべての人への感謝の思いが滲みみます。



PROFILE 宮城 杏優菜 (17)

浦添市当山出身。
 沖縄尚学高等学校3年。
 全日本柔道連盟の女子D強化(カデ)選手。9月に行われる世界カデ選手権大会への出場も控える。
 憧れの選手は渡名喜風南さん。相手のスタイルに合わせ、しっかりと自分の柔道を貫く姿に多くを学ぶ。
 週に一度の休みは、年の離れた弟と遊ぶことが「私の明日への活力です」と笑顔を見せる。

- 料理が好きで家族思いの娘です(母親談)
- 幼いころ「頑張ろうな」と励ましながら家族一緒にトレーニングした。その娘が今活躍している姿はとてうれしい。(父親談)